

# ト会 「いま求められるリート像」

## セミナー開催 150人参加し5講演

セメント協

セメント協会は2月6日、大阪市内で「第30回コンクリートセミナー」を開催した。「いま求められるコンクリート像」と題して、5件の講演を行った。参加者は約150人。

主催者を代表してセ協コンクリート普及専門委員会委員長を務める山田



曾我部直樹氏

浩司住友大阪セメントセメント・コンクリート研究所長が開会あいさつ。続いてまず鹿島技術研究所土木構造グループの曾我部直樹上席研究員が「コンクリート施工における生産性向上技術」について講演。国土交通省のi-Constructionの主要課題であるコンクリート



玉石竜介氏

工生産性向上に関連した動向を解説した後、鹿島における最新のコンクリート施工技術のいくつかを紹介した。コンクリート用化学混和剤協会の玉石竜介技術委員長は「化学混和剤の変遷と現状、未来」について解説。日本における化学混和剤の歴史や化学



鹿毛忠継氏

混和剤の分散機構などについて講演し、化学混和剤以外の界面活性剤の適用例を紹介した。建築研究所の鹿毛忠継材料研究グループ長は「セメント・コンクリートの品質向上と技術基準の標準化」建築の視点から「と題して講演した。JISや日本建築学



山路徹氏

会の規準類などを解説。現在の日本コンクリート工学会誌『コンクリート工学』の前身である『コンクリート・ジャーナル』1968年1月号「特集 コンクリート技術の標準化」に記載された課題を「現状ではおおむね達成できている」と紹介した。海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所の山路徹材料研究グループ長は「サステナブルな海洋コンクリート構造物に向けて」耐久性向上、資源循環の観点から



江良和徳氏

「をテーマに港湾空港技研の取り組みを中心に紹介した。具体的には港湾コンクリート構造物、とくに栈橋上部工の耐久性向上策と、再生骨材や銅スラグ細骨材の適用検討事例を解説した。

「維持管理時代にコンクリート技術者がなすべきこと」に関しては近未来コンクリート研究会の十河茂幸代表が体調不良で欠席し、同研究会の江良和徳顧問・理事が代わって講演。市町村が管理する橋梁を適切に点検するため同研究会とコンクリートメンテナンス協会が共同で作成した「小規模橋梁の簡易点検要領(案)」の概要を紹介した。